





様式1

決 裁 理 事 長	顧 問								
	院 長	顧 問	顧 問	副 院 長	副 院 長	副 院 長	副 院 長	事 務 長	受 領 者
							/		

小山記念病院倫理審査申請書

2023 年 7 月 14 日

小山記念病院倫理委員会委員長 殿

申請者 坂本 理恵



小山記念病院倫理委員会規定による審査を申請します。

1. 課題名	地域基幹病院の入院前問診室における薬剤師業務報告～より安全な周術期管理を目指して～	
2. 代表者名	所属	
坂本 理恵	薬剤部	
3. 共同担当者名※共同の場合のみ	所属	
田村美咲、松原由貴、花香淳一	薬剤部	
4. 概要(具体的に記載すること)		
<p>[1] 目的</p> <p>2022年10月から入院前問診に薬剤師が参入し、眼科・産科を除く予約入院患者のアレルギー歴や副作用歴の聴取や市販薬、健康食品・サプリメントの使用状況、医薬品の内服状況を確認している。その後、当院薬剤部で発行している周術期等で休薬が必要な薬剤の一覧表をもとに、休薬が必要な薬剤の確認を行い、必要であれば医師へ問い合わせを行っている。18ヶ月が経過したため、業務実績報告と経験した症例紹介が目的となる。</p> <p>[2] 対象および方法</p> <p>症例1) 40代 女性 腹腔鏡下胆嚢摘出術で予定入院の患者 入院前問診にてプリヴェル配合錠LDの内服が発覚。 血栓形成の可能性から術前4週の休薬が必要とされており、主治医へ確認。 推奨通り4週の休薬後手術となったため術日変更となった。</p> <p>症例2) 60代 男性 非弁膜性発作性心房細動によりアブレーション目的入院の患者 入院前問診の事前情報収集で、造影剤にアレルギー反応歴の可能性があったため本人へ確認聴取したところ、本人も忘れていたがアレルギー症状の既往があり、ステロイド使用にて検査をしたことがあると発覚。主治医へ報告し造影検査・アブレーションともに造影剤不使用へ方針変更となった。</p> <p>方法:ポスター掲示 利益:他院との情報共有 協力を拒否できることを守る措置:氏名・年齢等、個人を特定できる情報を記載しないように配慮</p> <p>[3] 審査を希望する理由 学会発表のため</p>		